

折に触れ 四字熟語

NO. 33 『遠慮近憂』 えんりよ きんゆう

< 意味 > 遠い将来のことまで見通した深い考えをもたないでいると、必ず手近なところに身に迫った心配事が起こること。

< 出典 > 「論語」<衛霊公>
「子曰、人無遠慮、必有近憂。」

読み下し：『子曰く、人、遠き^{おもんばかり}慮無きときは、必ず近きに^{うれい}憂有り。』

通 釈：孔子言う、もし人が、遠い将来を見通したり、広く周囲を見廻したりして深い思慮をめぐらしておかないと、必ず手ぢかなところに身にさし迫った心配事が起こって来るものである。

一 言： 論語シリーズその2

参照文献： 大修館書店・諸橋轍次著「論語の講義」 三省堂「四字熟語辞典」